第100号

東稲ニュース

第100号記念　特大号

早稲田大学校友会東久留米稲門会

平成３０年　５月１０日発行
発行責任者　高橋 哲男
編集責任者　小山田朋樹
E-mail:bente-takahashi@jcom.home.ne.jp
http://higashikurume-toumonkai.com/

東久留米稲門会 第24回定時総会報告（平成30年4月22日開催）

第１部「文化講演会」

「ヤクルト一筋４７年～野球は人を育てる」

◆講師　八重樫幸雄氏

バットを持って打撃の説明　講師　八重樫氏

講師は仙台商高の主力として3年生の夏に甲子園ベスト8。全日本高校選抜の捕手としてブラジル遠征。1969年ドラフト1位でヤクルト入団。ベストナインにも輝く。眼鏡と独特のオープンスタンスで野球ファンの記憶に残る選手として24年。選手兼任2年含め2軍監督・1軍打撃コーチなど指導者17年、スカウト8年。通算47年間のヤクルト一筋を貫く稀有なプロ野球叩き上げ人生を、一昨年65才で卒業。現在は解説やアマチュア野球の指導を通じ野球界の発展に貢献している。

講演では、同氏が球界で栄光と辛苦を体験してきた野球人生を通じ、教えられ学んだことを中心に語られた。以下、講演要旨です。

高校時代に太田幸司投手擁する三沢高と松山商との決勝引き分け再試合の影響で日本選抜のブラジル遠征の行程が1日ずれたため現地で乗る予定だった航空機の墜落事故を逃れ命拾いを経験。この数奇な運命と仙台商の恩師の言葉、「実るほど頭を垂れる稲穂かな。」から得た謙虚な生き方は、新陳代謝が激しいプロの世界で47年間も真に必要とされる人間としての礎となった。

プロ14年目の1983年、膝の怪我と視力障害で減った出場機会を中西太(元、西鉄)コーチとの出会いが救ってくれた。共に開発に腐心した独特のオープンスタンスが選手生活を蘇らせた。「これがダメなら一緒に辞めよう！」との同コーチの師匠としての覚悟は自分の指導者としての道標となった。また、4年間を選手として仕えた野村監督からは戦力外を告げられたが、その後の5年間、コーチ・2軍監督を託され同監督から「考える野球」、「監督がコーチを伸ばしてやろうとの覚悟が選手の育成に繋がること」など多くを学んだ。さらに、自身が指導育成した早稲田出身の青木らの他にも岩村・五十嵐・稲葉などの選手たちを事例に“素質”と“才能”との因果関係の自説を展開。

最後に「野球とは」として、

１．メンタルなスポーツであること　　２．団体競技であること

つながり・まとまり・チームワーク・団結力が大切な要素である。「これらは企業・団体そして家庭にも通じること。」と締め括った。

出席者からは「アマチュア時代からプロ球界での活躍の様子や技術的な話が良く理解でき、とても良かったと思います。貴重なお話を聞き少年野球の選手達を指導するにあたり参考にさせて頂きたいです。」との感想や、他方「身振り手振りの講話が多かったためマイクが遠くなって声が聞こえづらかったように感じました。」とのご意見もいただきました。

運営面での不行き届きにお詫び申し上げますとともに今後に活かしたく存じます。なお、八重樫氏は懇親会にも出席され、多くの来賓や会員と語り合ってくださいました。　　長束 輝夫 記

現役時代の八重樫氏

＜講師プロフィール＞
1951 年：宮城県仙台市生まれ。仙台商業高校の主力として甲子園 2 回出場、3 年時にベスト 8、太田幸司選手らとともに全日本高校選抜メンバーとしてブラジル・ペルー・アメリカ遠征。1969 年：ドラフト 1 位でヤクルトアトムズ（現､ヤクルトスワローズ）入団。ベストナイン 1 回（1985）、通算 103 本塁打、401 打点、最多実働年数 23 年はセ・リーグ記録。捕手で 935 試合、一塁手で 23 試合、三塁手で 4 試合、外野手で 17 試合出場。ベストシーズンは 1985 年。120 試合出場、130 安打、13 本塁打、68 打点、打率. 304。1993 年：選手引退。1994 年～95 年：2 軍バッテリーコーチ、1996 年：1 軍バッテリーコーチ、1997 年～98 年：2 軍監督、99 年：チーフ兼打撃コーチ、2000 年：1 軍打撃コーチ。2009 年～16 年：スカウト、2016 年 12 月退団。通算 14 人の監督を支えた。現在：公益社団法人全国野球振興会の正会員としてアマチュア野球の指導育成に努めている。

第 2 部「定時総会」

平成 30 年 4 月 22 日(日)午後 2 時より成美教育文化会館で文化講演会、定時総会及び懇親会が開催された。文化講演会には一般参加者を含め約 80 名の参加があり、定時総会・懇親会には東久留米市並木市長をはじめ大学代表者と近隣稲門会からの来賓 12 名と会員 55 名が参加した。

定時総会は、村野副会長の司会で開会、高橋会長より、来賓の紹介の後、稲門会の部会活動は会の根幹であるので部員増強等に力を注いでいきたいとの挨拶があった。

引き続き、来賓を代表して東久留米市並木市長から、常日頃からの市民への文化活動に対する感謝と、今後も稲門会のネットワークを利用して、市の高齢化対策、人口減対策さらに魅力あふれる東久留米市にするために知恵をお借りしたいとの挨拶があった。

並木克巳　東久留米市長

早稲田大学　根本進　教育企画課長

早稲田大学地域ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀの根本教育企画課長からは、総会への祝辞と 63 万人の校友がいるが校友会費納入者は 16 万人ゆえ、校友会にとって若い校友の皆さんの力が大事であり、個性あふれる校友の活躍を期待したいとの挨拶があった。

続いて議事に入り、高橋会長を議長に選出し、以下の内容が可決承認された。

(1) 平成 29 年度事業報告
(2) 平成 29 年度収支決算報告
(3) 平成 29 年度収支決算監査報告
(4) 平成 30 年度事業計画
(5) 平成 30 年度収支計画

大矢 真弘 記

＜高橋哲男会長挨拶＞

高橋哲男　東久留米稲門会会長

気候変動の激しい中、会員の皆様はお元気ににお過ごしのことと存じます。日頃、皆様には稲門会活動をご支援ご協力いただきまして深謝いたします。また、本日はご多忙の中、「東久留米稲門会第24回定時総会」ご出席いただきましてありがとうございます。またご来賓の皆様にあらためてご臨席の御礼を申し上げます。

まず、会員数の状況について説明させていただきます。総会資料5ﾍﾟｰｼﾞ平成29年度収支決算書によりますと年会費は148名分と前年比5名減少しています。これは、3名が新規に入会しましたが、物故者及び健康の問題等からの退会者が8名になりました。しかし平成30年度は、すでに4名が入会し、会費納入済みです。また、従来は会費納入が6月末までとしその時点で会員名簿から、名前を削除していましたが、数年前から長期間入会している会員等もいることから、1年間猶予しています。その会員も4～5名いますので150名の会員数は維持できる見通しです。但し、会員数の維持、増強は喫緊の課題であり、昨年に増して取り組んでいきたいと思います。

部会につきまして安宅初代会長、高橋二代会長が基盤をつくり、その後、数部の部会を設立して今日に至りました。部会活動は、稲門会活動の根幹であり、高橋二代会長の教訓としても私の心に残っております。昨年度は各部会長ご多忙の中、役員との会議を開催しました。この会議を少しでも成果に繋げたく未加入の会員に部会への勧誘を図っていきたいと思います。

また、映画鑑賞会につきましては、本年度第59回になりましたが、会員、市民を併せて毎回約300名の参加を得て東久留米市に寄与しております。第60回からは、諸先輩の意見を仰ぎながら、事務局、会計を中心とした役員会で開催していく予定です。これまで映画鑑賞会を支えていただいた諸先輩にお礼申し上げます。また、会員の皆様今後とも宜しくご支援お願いします。

大学関係のことにつきましては、来賓の方のご臨席もありますので簡単に申し上げます。今年は総長選で6月に決定される予定ですが、大学及び校友にも交流してくれる総長が望ましいと思います。一方、西武新宿線に比べ西武池袋線は大学からの施設は少ない状況ですが、副都心線も利用でき大学との距離も近くなりました。西武池袋線方面も配慮してくれれば、大学との繋がりもさらに深くなるのではないでしょうか。

つぎに早稲田HEALTHSTUDYの活用については、各稲門会の校友の目標入会率2.5%に対して当会は2.9%ですが、健康のために更に加入を勧めます。

最後に皆様の健勝を祈願しまして、挨拶とさせていただきます。

第3部「懇親会」

安宅初代会長の乾杯で開宴

総会終了後、成美会館3階に会場を移し、大矢事務局長の司会により、会員50名と来賓や講演者八重樫さんを含め総勢60名の懇親会が開かれ、来賓の東村山稲門会大内会長、東久留米三田会大野会長の祝辞に続き、初代会長安宅さんの挨拶と乾杯の音頭で開会した。

飲むほどに酔うほどに懇親の場は盛り上がり、そこここに会話の輪が広がり、司会の声も中々聞き取れない中、今年度より入会予定の5名のうち懇親会に出席した2名の紹介があった。笹井瞭三さんは36年教育卒、当会には未入会だったが、バトミントン部会のユニフォームのWマ

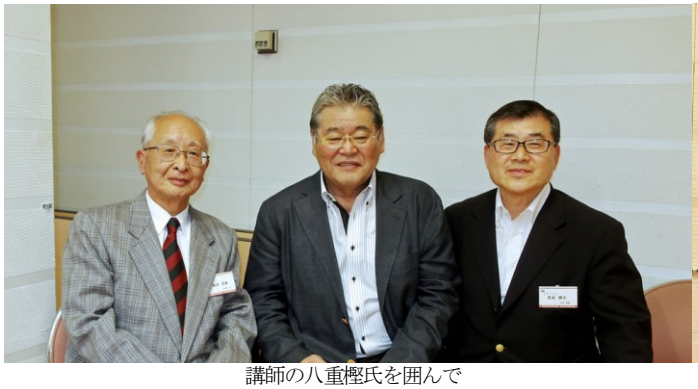
ご来賓 大野三田会会長

ご来賓 大内東村山稲門会会長

ークロゴに刺激を受け入会を決意した、趣味は卓球と囲碁とのこと。

もう一方の平山努さん(53 年商学部卒)は、少し珍しい趣味の「謡曲」を紹介し、歌えとの要請に応え見事に謡いあげ、参加者からやんやの拍手喝采をあびた。

酒も進み、料理も粗方平らげたところで、元会長帆角さんの挨拶と三本締めで〆、大矢さんの指揮のもと、大島さんのハモニカ演奏で、「若き血」と「早稲田大学校歌」を斉唱、ゲストの八重樫さんにエールを送り懇親会も無事終了しました。　　小野 泰右 記


講師の八重樫氏を囲んで

新入会のお二人　左が笹井さん、右が平山さん

大矢事務局長のリードと、大島会員のハーモニカ伴奏で、恒例の校歌斉唱とエール

帆角元会長による三本締め

＜定時総会/懇親会出席者＞（敬称略　50 音順）

【来賓】東久留米市：並木克巳(市長)、早稲田大学：根本進(地域コーディネーター、教務部教育企画課長)、東久留米三田会：大野貴志夫(会長)、佐武昇(副会長)、清瀬稲門会：内田貞司(会長)、神山和夫(副会長)、小平稲門会：栗原政博(会長)、大島二典(幹事長)、西東京稲門会：高橋隆門(副会長兼会計監事)、宿利忠(副幹事長)、東村山稲門会：大内一男(会長)、高橋文子(幹事)、

【会員】安宅武一、安次峰暁、鮎貝盛和、安藤信雄、井坂宏、石寺美弥子、伊東毅、上田敦嗣、上田芳裕、上原徹也、栄田卓弘、榎本隆司、大島勝典、大矢真弘、小野泰右、小山田朋樹、梶井琢太、河村洋子、吉川明美、久家政裕、呉淳久、後藤秀作、國米家巳三、酒井正敬、笹井瞭三、佐藤雄二、島田好多、清水正弘、杉本達夫、高橋哲男、高柳康夫、橘優治、辰巳徳蔵、塚越崇、東海俊孝、中村敏明、長束輝夫、長谷山勝美、比護喜一郎、菱山房子、平山努、平山正徑、船津高志、別処尚志、帆角信美、松崎博、三浦洋子、武藤豊、村上万里、村野建彦、山岡恭子、山口謙二、横田治彦、米光慶二郎、渡辺真司、

平成29年度決算／平成30年度予算（概要）

平成29年度収支決算 および 平成30年度収支計画が 下記のとおり総会において承認されました。

平成29年度　東久留米稲門会収支決算書　　平成30年度　東久留米稲門会収支計画

〔収入の部〕

項目	29年度 計画①	29年度 決算②	計画−実績（＋は余剰）（−は不足）	30年度 計画③	29年度対計画（増・減）	29年度対実績（増・減）	摘要
年会費	465,000	444,000	−21,000	465,000	0	21,000	会員155名を見込み
組織強化補助金	251,000	251,000	0	252,000	1,000	1,000	大学からの補助金
雑収入	20,000	22,005	2,005	20,000	0	−2,005	祝儀
その他収入	0	4,679	4,679	0	0	−4,679	（特別会計の余剰科目）
（収入計）	736,000	721,684	−14,316	737,000	1,000	15,316	
前年度繰越金	583,836	583,836	0	731,774	147,938	147,938	
（合計）	1,319,836	1,305,520	−14,316	1,468,774	148,938	163,254	

〔支出の部〕　（単位 円）

項目	29年度 計画①	29年度 決算②	計画−実績（＋は超過）（−は余剰）	30年度 計画③	29年度対計画（増・減）	29年度対実績（増・減）	摘要
総会費	80,000	60,426	−19,574	80,000	0	19,574	講演料、会場費他
通信費	50,000	40,958	−9,042	50,000	0	9,042	前実、サーバーレンタル料
印刷費	30,000	19,385	−10,615	70,000	40,000	50,615	
消耗品費	60,000	108,937	48,937	60,000	0	−48,937	前年同額（在庫調整終了）
近隣稲門会校友会交流費	70,000	61,000	−9,000	80,000	10,000	19,000	
交通費	30,000	30,000	0	30,000	0	0	前実ベース（市外の役務）
部会補助金	100,000	100,000	0	100,000	0	0	前実ベース（10部会）
イベント補助金	70,000	38,101	−31,899	70,000	0	31,899	イベント会場費4.5万
寄付金	90,000	66,200	−23,800	80,000	−10,000	13,800	補助金確保要件
会議費	20,000	8,081	−11,919	20,000	0	11,919	会議室賃料
雑費	20,000	4,458	−15,542	10,000	−10,000	5,542	前実（送金費など）
弔慰金	0	36,200	36,200	—	—	—	
予備費	110,000	0	−110,000	80,000	−30,000	80,000	30年度 諸計画費用
（支出計）	730,000	573,746	−156,254	730,000	0	156,254	
次年度繰越金	589,836	731,774	141,938	738,774	148,938	7,000	
（合計）	1,319,836	1,305,520	−14,316	1,468,774	148,938	163,254	

注記：次年度繰越金と現預金残高、前受金等の関連説明

		決算額	
現金	〔＋〕	0	
預金	〔＋〕	929,774	3月31日現在
前受金	〔−〕	198,000	30年度会費
次年度繰越金		731,774	

（監査報告）

東久留米稲門会規約 第7条の規定に基づき、
平成29年度の決算書類について監査の結果
適正なることを認めます。

平成30年4月2日

東久留米稲門会　会計監事　吉川明美　㊞
会計監事　塚越　崇　㊞

会計幹事　清水 正弘 記

会の告知板

【部会予定】

5 月 13 日(日)～14 日(月)	旅行同好会「福島県母畑温泉」	08:15　東久留米市役所前
5 月 21 日(月)	ｳｫｰｷﾝｸﾞ&山歩き部会「甲州街道を歩く　第 7 回」	【鳥沢駅→初狩駅】13.6 ㎞
5 月 29 日(火)	ゴルフ部会「三田会との合同コンペ」	越生ゴルフクラブ
6 月　2 日(土)	野球早慶戦観戦部会	10:30　東久留米駅改札口
6 月　4 日(月)	ｳｫｰｷﾝｸﾞ&山歩き部会「水元公園　第 66 回」	09:30　東久留米駅改札口
6 月　9 日(土)	2018 年度第 1 回役員会	16:00　生涯学習センター
6 月 18 日(月)	ｳｫｰｷﾝｸﾞ&山歩き部会「甲州街道を歩く　第 8 回」	＜詳細未定＞
6 月 28 日(木)	映画鑑賞会「ライムライト」	14:00　成美教育文化会館
7 月　9 日(月)	ｳｫｰｷﾝｸﾞ&山歩き部会「甲州街道を歩く　第 9 回」	＜詳細未定＞

＜各部会定例活動一覧＞

部 会	5 月				6 月			
	日	曜	時間	場所	日	曜	時間	場所
女性サークル	17	木	10:00	プーシキン展	10	日	10:00~	中央町地区ｾﾝﾀｰ
書 道	13	日	13:00~	生涯学習センター	10	日	13:00~	生涯学習センター
俳 句	20	日	13:00~	生涯学習センター	17	日	13:00~	生涯学習センター
囲 碁	27	日	13:00~	成美教育文化会館	24	日	13:00~	成美教育文化会館
太極拳	12	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	9	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
	19	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	16	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
	26	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	23	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
バドミントン	毎週金		10:30~	東久留米ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ	毎週金		10:30~	東久留米ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ

【大学・校友会関係】

6 月　2 日(土)	清瀬稲門会総会	高橋会長、村野副会長　出席予定
6 月 10 日(日)	西東京稲門会総会	高橋会長、村野副会長　出席予定
8 月 19 日(日)	三多摩会長会	高橋会長、大矢事務局長　出席予定

会の報告

◎役員会報告　平成 30 年度臨時役員会が 4 月 8 日(日)16：30 より生涯学習センターで開催された。

＜議事録概要＞

1．第 24 回定時総会について

（1）文化講演会　4 月 22 日(日)14:00～15:30　司会：長束幹事

講師：八重樫幸雄氏

講演名「ヤクルト一筋 47 年～野球は人を育てる」

（2）定時総会　15:40～16:30　司会：村野副会長、議長：高橋会長

（3）懇親会　16:45～18:30　司会：大矢事務局長

（4）定時総会などの準備　①総会資料印刷及び袋詰め作業　4 月 15 日(日)16:00～17:00、100 部印刷予定、ホチキス等の準備　②役割分担　・会場準備：定時総会、懇親会両会場　責任者は小野副会長、

大矢事務局長　・受付（定時総会・懇親会）：山口、横田、山岡　（受付名簿：大矢）　・名札：小山田、大矢　・校旗：大矢　・看板(定時総会、講演会、懇親会)：大矢　・ケータリング、酒等の手配：大矢　・講演者へのお礼：清水　・来賓手土産の手配：吉川　・写真：清水、小山田

③当日集合時間：　12 時 30 分

２．幹事長・事務局長会議・代議員会の報告

３．組織強化補助金について　本年度も申請をする。体育各部への寄付は「アーチェリー部」へ。

４．広報関係　・東稲ニュース　編集案概要と原稿執筆依頼

５．その他　・会長より「結婚相談室　いなほ会」について　・近隣稲門会等について　三田会総会：4/21(土)高橋 村野、清瀬稲門会：6/2(土)高橋 村野、西東京稲門会：6/10(日)高橋 山口、三多摩会長会：8/19(日)高橋 大矢　・映画鑑賞会について　次回開催は 6/28(木)とする。・東稲ニュース題字について　書道部の武藤部会長に題字を依頼し、東稲ニュース 101 号から使用することとする。

大矢 真弘 記

◎春期代議員会　3 月 3 日(土)　16:00～17:45　於）大隈講堂

１．鎌田会長挨拶（抜粋）　①会出席者 650 名　②今年度入試受験者 117,209 名（前年比 101.9%）③エクステンションセンター受講者 43,00 名/年　④3 月 20 日早稲田歴史館開館

２．代表幹事挨拶（内容省略）

３．協議事項　①2017 年度活動報告及び決算予想　②2018 年度活動報告及び予算編成（稲門祭 10 月 21 日開催）③推薦校友候補者承認

４．報告事項（抜粋）　ヘルススタディー登録者 2 月 1 日時点 4,542 名。当会では 23 名登録しており、2017 年 9 月 1 日から 3 名増。40 歳以上校友会員に対して 2%登録の目標には 2.9%登録で達成。

山口 謙二 記

◎稲門祭実行委員会　4 月 6 日(金)18:30～20:00 於）井深大記念ホール

2018 稲門祭の第 1 回実行委員会が開催され、中村・山口両名が出席。本年度は 10 月 21 日(日)に開催され、テーマは「WASEDA　DNA　私たちには同じ血が流れている」です。約 15,000 人の来場を見込んでいます。同時にホームカミングデーも開催され、1969,1974,1984,1994,2004 年卒業生が招待されます。

今年の記念グッズは 10,000 円コース（ウインドジャケット、有田焼・オリジナル小鉢）、4,000 円コース（ネクタイ：今年はブルー、オリジナルコロン）、2,000 円コース（今治タオルハンカチ、扇子、多機能ペン、歯ブラシ、ゴルフボール）です。記念品売上を含め稲門祭の収益は全額「校友会奨学金」となり、在校生を支援します。各部会を通じても購入のお願いを致しております。何卒宜しくお願い申し上げます。

山口 謙二 記

部会報告

＜書道部会＞　「書道部との出会い」

成美教育文化会館での映画の会(稲門会主催)にいつも参加し、楽しみのひとつでした。その帰りに稲門会の書道展に出会い、すばらしい作品ばかりでとても感動いたしました。

書道展にて　中央が村上早苗さん

書道は東久留米では何ヵ所か経験はありましたが、見本は先生の手書きのコピーでの勉強でした。稲門会に入会するには条件がありました。早稲田大学の仕事の経験があるということを栄田様に相談しましたら、武藤先生より了解が得られ、新しく勉強する機会が得られました。ベテラン仲間に入って新人が 1 人付いていけるか不安でし

たが、先生の熱心さにびっくり。まずお手本は先生の朱墨での手書きを生徒全員に頂ける事でした。月に１度全員の作品を展示し評価し各自説明する等、私にとってはとてもむずかしいことでした。終了後は朱墨で添削して下さり、自宅で気に入る迄何枚も書き、清書します。月に一回ならと思いやり始めましたが、続けることは本当に大変でした。おかげさまで集中力が少しずつ付いて来た様に思います。

２年続くかどうか心配でしたが、２度の作品展に迄参加出来て幸せでした。気が付けば４年間も過ぎ５年目を迎えていました。けがばかりする私は頑張れなくなりました。体調がよくなりましたら、今度は“かな”の勉強を一から少しずつ書ける様になりたいと思います。先生をはじめ、稲門会の皆様、今迄いろいろとお世話になりありがとうございました。　　村上 早苗 記

「書道部のひよこ」

昨年の新年会で、書道部に誘われました。そして、私がなぜ字がへただと分かったか（笑）。勘でしょうね。最初の例会に出席したら、11 月に 20 周年記念書作展があるとのこと。「えー」と思わず言ってしまいました。

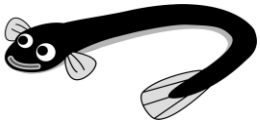
武藤先生に言葉を選ぶようにと言われ、お手本を書いてもらいました。20 周年には、「花」と「玲瓏（れいろう）」を出展しました。「玲瓏」は、玉などが透き通るように美しいさまを表す言葉です。

書道展出展作品の前で　前川初子さん

書道の良い点は、練習している時の没入していく感じ、周りが無音になる感覚ですね。そして、例会で、会員の書が見られること、先生から直してもらえることです。私は書道部のひよこです。　　前川 初子 記

＜グルメ部会＞　３月５日（月）　第 29 回東稲グルメの会「川越　うなぎ・ぽんぽこ亭」

平成 30 年３月５日（月）東久留米駅９時集合で本川越駅へ、９時 42 分到着、二組に分かれて川越市内を散策、健脚組は喜多院回りで蔵の街へ、もう一組は蔵の街のみじっくりと回った。その後再び全員が本川越駅に集合して、東武東上線川越市駅まで歩き、電車で新河岸駅へ移動、目的の「うなぎ・ぽんぽこ亭」には 12 時 30 分に到着した。



参加者は男性 13 人（女性会員のご主人を含む）女性６人（会員の奥様４人含む）の 19 人で、メニューは酢の物、焼き鳥、鯉のあらい、うな重のコースそしてお酒もたっぷりいただいて、全員大満足でした。村野 建彦 記

成美教育文化会館１Ｆベランダにて　満開の桜の樹を背景にして

＜太極拳の集い＞

「圧倒的な花吹雪の中で」

―太極拳花見で稽古―

你好（二ーハオ）　３月 31 日（土）は、部会恒例の稽古＆お花見の会。今年は、「桜前線足早し」の報を聞き何時でも対応でき、雨でも OK、寒くてもこれまた OK という室内からのお花見としました。

東久留米随一（？）といわれる成美教育文化会館付随の“なでしこ幼稚園”の桜を大画面の額縁に切

り取っての花見会です。太極拳メンバーだけではもったいないということで稲門会会員にもお知らせし、他部会、役員の方の参加もいただき、総勢22名で熱い稽古でひと汗かき、そのあと宴をくりひろげたのです。沢山の方から差し入れを頂き大盛況！　目の前が真っ白になるほどの全く見事な花吹雪、美味い手料理、旨い酒、この世の天国を満喫した3時間、元若者達のそれはそれは賑やかな会話の飛び交う中“一丁締め”でお開き！！　謝謝(シェーシェー)　　渡辺 真司 記

＜ウォーキング＆山歩き部会＞　（第65回）4月2日　清瀬　カタクリの群生、柳瀬川の桜

すぐ隣町にある花の名所を訪ねたことがない校友が、少なからずいらっしゃるようである。例年より10日程早い桜の開花を告げるマスコミ報道に、今回の期日では既に花が散っていることの危惧を抱きながら、当日を迎えた。

カタクリ群生地　可憐な薄紫の花を前に記念撮影

天気は正にウォーキング日和の中、総勢18名(男12、女6)で清瀬駅北口を出発、空堀川沿いのカタクリ群生地を目指す。折からカタクリ祭りの最中で、ボランティアの方に案内されて群生地へ着くと、疎らな林の斜面に小さな薄紫の花を下向きにつけているのを、草むらの中に発見。眼を凝らすと、余り広くはない辺り一面に三々五々、同じ姿形の薄紫の点在が見て取れた。芝桜のように密集して咲き誇るというのとは異なり、それぞれが密やかに草の合間に隠れて咲くといった趣を文章で表現するのは難しく、先人の句や歌を訪ねることにした。

群れゐても　かたくりの花　ひそとして　（渡辺伝三）

うつむきてかたるほかなく ふるさとのほのむらさきの片栗の花（馬場あき子）

次に、小さな小川に沿った「清瀬せせらぎ公園」を散策し、小金井街道の清瀬橋を渡って、柳瀬川の左岸に歩を進め「清瀬金山緑地公園」に至る。その先金山橋から台田公園に至る川沿いの2㎞弱は桜の名所として知られており、散り始めてはいたものの、辛うじて花見に耐える花の咲き誇りを保っていた。早速その桜の木の下に筵(シート）を広げ、参加者一同円陣となって乾杯。折から吹く心地よい風が、散り行く花びらを桜吹雪として我々に降り注いできて、酒宴が盛り上がった。満開の花の下も素晴らしいが、豪雪のような花びらを浴びることで、皆、酒に加えて、酒とは別の官能に酔い痴れて、一ときを堪能した。

柳瀬川　桜の下で

花吹雪　浴びて大樹を　仰ぎけり（加藤美津子）

またや見ん　交野(かたの)の御野(みの)の桜がり　花の雪ちる春の曙（藤原俊成）

帰路、日枝神社・水天宮に参拝し、清瀬駅に戻った。

ウォーキング番外編『甲州街道を歩く』活動報告

甲州街道を歩く　第５回（H30.3.19）小仏峠を越えて与瀬宿（相模湖駅）へ　　7.7㎞

標高 648mの小仏峠は、奈良時代の僧・行基が峠に一寺を建て、一寸八分の小さな仏を安置したことに由来すると言われる。江戸時代に小仏峠を通る甲州街道が指定され、甲斐国と武蔵国・相模国を結ぶ要路として通行が盛んになったが、勾配が急で車道化が困難であった為、明治 21 年に国道が大垂水峠を経由するルート（現 20 号線）へ変更された。これによって小仏峠を通る通行者は激減し、街道も寂れた。

登り口である小仏から 300m弱の標高差を2㎞半程度で登る峠道はかなりの負荷であり、九十九折の小仏峠東坂の急坂を、息を切らせて登って漸く頂上に辿り着いた。頂上は小さな広場で幾つかのテーブルが置かれ、これを囲んで昼食をとったが、運動の後の食事は美味であった。そこから小原宿を経て与瀬宿（相模湖駅）への平地に続く小仏峠西坂は、登りの倍近い距離の下り坂であり、後で少なからぬ人達が「足が痛い」と訴えることとなった。江戸・明治の人々の道行きの苦労が思い知られる峠越えであった。

小仏峠東坂　急坂途中にて

平地に出て、国道 20 号を歩き小原宿跡で重要文化財「清水本陣」の立派な門を過ぎ、相模湖のダムを正面から間近に見ながらJR相模湖駅に至った。　総勢９名（男 5、女 4）

甲州街道を歩く　第６回（H30.4.16）野田尻宿、犬目宿、下鳥沢宿　14.6㎞

JR 上野原駅から JR 鳥沢駅に至る今回のウォーキングは、全て現在の甲州街道（国道 20 号）と離れたルートで、自動車も少ない旧街道である。上野原の街中を出ると、道は曲がりくねり、アップダウンの連続で平地が殆ど無い昔ながらの道中を、総勢9名（男5、女4）は、天候に恵まれて、江戸時代の人々宜しく、長い道程を歩いた。　往事の宿場の跡には集落があり、家々の表札に名字と共に屋号が記されているのが昔日の面影を残していた。集落を外れると、舗装されているものの昔ながらの街道であり、所々春の花が咲いている、そういった環境の中で旧街道の雰囲気を楽しみながら、最終地点に辿り着いた。途中、ごく僅かであったが、林の中に石畳の道も残っていた。また、集落内では、都会と違って隣家との距離が十分ある家々の、道に面して植えられている、色とりどりの花の美しさが非常に印象的であった。

鶴川宿

別に記憶に残ったのは、武田信玄が小田原北条氏に備えて築いた長峰の砦跡の碑が道端にポツンとある傍にあった、松尾芭蕉の「古池や　かわず飛び込む　水の音」の句碑である。

ウォーキング＆山歩き（臨時開催）　５月２日　越生・五大尊つつじ公園

総勢 16 名(男 10、女 6)の参加を得て、東武越生駅から徒歩 15 分。例年より 1 旬早いという開花状況の報道の通りであったが、辛うじて、「なごり雪」ならぬ、なごりの躑躅(つつじ)を観ることが出来たのは幸いであった。

五大尊つつじ公園にて

「百両の　石にもまけぬ　つつじ哉」(小林一茶)
満開に咲き誇る景色に想いを馳せながら、眼の前の可憐に残る花を楽しんだ。
本川越にて、女性も参加し 13 名で打ち上げを行った。

部会長:東海 俊孝 記

雨支度で記念撮影

＜ゴルフ部会＞　4 月 24 日(火)
ゴルフ部会「春期コンペ」

4 月 24 日(火)玉村ゴルフ場にて春の稲門会ゴルフを開催しました。雨の予報でしたが、たいしたことなく、むしろ前日までの暑さに比べると涼しく絶好のゴルフ日和でした。10 人の参加で、上位 4 人までが 1 打差という接戦を制し清水さんがグロス 91、ネット 75 で優勝、昨秋に続き 2 連覇でした。2 位は池田さん、3 位は金子でした。

5 月 29 日(火)は三田会との対抗コンペが、越生ゴルフクラブにて開催されます。エースの上原さんが参加できないのは痛いですが、皆さんの頑張りで稲門会の 9 連勝をめざします。

金子 孝司 記

＜俳句部会＞

第 212 回　3 月 18 日　　兼題：春灯、霞

＜高点句＞

安曇野の霞の中を一両車	神田尚計
隅田川行き交う舟の春灯し	三浦洋子
水温む仮校舎より九九の声	片平るみ

＜自選一句＞

退職を送る杯春灯下	杉本達夫
電車来る霞おし分け早稲田行き	大久保泰司
春霞一句遺して友の逝く	川島知子
春灯の下に二つの影法師	比護喜一郎
早朝の親子ジョギング木の芽風	橘優治
散歩道沈丁の香にみちてをり	安宅武一
雪に舞うスノーボードの影ひとつ	馬場清彦

第 213 回　4 月 15 日　　兼題：春愁、春の夕

＜高点句＞

何ごとか子らの諍う春の夕	杉本達夫
行く春や会いたき人の数あまた	川島知子
石仏の百の静けさ春尽くる	片平るみ

＜自選一句＞

春愁や諸行無常の日暮れ時	大久保泰司
泥濘に藁しべ一本春愁ひ	神田尚計
春愁や妻との話とどこおり	橘優治
春夕べ点滅初むる電波塔	比護喜一郎
はなやぎもなぜかけだるき春の夕	馬場清彦
駅前で歌う若者春の夕	三浦洋子
行く春や打ち出す鐘も霞みけり	安宅武一
仄暗き病床の窓春が行く	藤田貞夫
春愁やシルバーシートに席もらい	本間信一

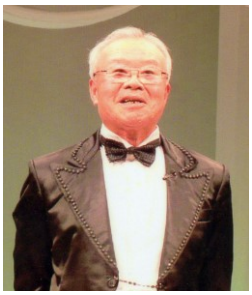
俳句部会のメンバーであった川俣栄一さんは、3 月 14 日に亡くなられました。
亡くなる前日に、川俣さんが投句された俳句をご紹介したいと思います。
＜川俣栄一＞

花散るや野辺に水面に心端に　　朝霞君とおぼしき人の影　　春灯や主留守にして家広し

川俣さんのご冥福をお祈りいたします。　　片平 るみ 記

100 号記念特集　「東稲ニュース 100 号に寄せて」(卒年順)

「ウォーキング」　　安宅 武一　(28 年　商)



さて筆はとったものの体力的にもかなり方々痛んで来たので、好きなゴルフもやめた。さて何をどうするかを思案し、思いついたのがウォーキングであった。近くにできたイオンモールにオープンと同時に、駐車場ビルも含めて一周 1 キロのウォーキングコースが設けられた。途中 100 メートルごとにマイルストーンが立っている。毎日これを往復 2 周することにして、3 時になると家を出る。歩数にして約 5 千歩。時間にして 1 時間である。

イオンモールとの境界には雑木が植えられており、さして見るべきものはないが、2 月より 3 月にかけて数多く植えられている沈丁花が咲いて、その芳香は散歩を大いに楽しませる。沈香、丁字香などを合わせたくらい芳しい香りは実に奥ゆかしいそれだ。

「沈丁花其処より垣の曲りかど」植本純子の名句通り散歩道一帯が芳香に包まれるが、4 月の声を聴くと沈丁花は盛りを終える。

次は藤の出番である。残念ながら藤の木を植えている家は此の辺りでは殆ど無い。

「藤波の花は盛りになりにけり、平城(なら)の京(みやこ)を思はすや君」」この歌のように、奈良は古代にも藤の紫に飾られていたとみえる。以来日本の伝統では、詩歌に、工芸に、藤は愛され、大津絵から歌舞伎舞踏の藤娘にまで及んでいる。

藤の紫の房は 60 センチ以上にも達し、太った数匹の蜜蜂が常に舞っている。生協の配達を担当している若者も蜂が恐くて門から中に入るのを躊躇う程だ。

そろそろ帰る時間が来た。本日も晴天に恵まれ予定通りのコースを歩くことが出来た。歩数が 5156 歩。明日の晴天を期待しつつ今日はこれで終わりにしよう。

先駆け「杜の西北」を偲ぶ　　國米 家巳三　(31 年　政経)

(1)　2003年3月　東久留米稲門会・会報 杜の西北　第9号

内閣 第9号 2003年3月

東久留米稲門会・会報

杜の西北

発行 早稲田大学東久留米稲門会

事務局　東京都東久留米市下里1-11-4
電話　0424-73-5897
http://hanagu@iby.com/32267

60年前、東久留米に

稲門人が残した足跡

「早稲田大学学徒錬成部・久留米道場」の史実を追う

久留米道場で、雪作のあとの体操に励む早稲田高等学院の学生

風化して、いまはなんの痕跡もない。60年の歳月のなかに消えてしまったのである。だがしかし、それは昭和15年から終戦直前まで、ごく短い寿命ながら、確実に存在した。「早稲田大学学徒錬成部・久留米道場」――。都の西北、早稲田の杜の、そのまた西北、東久留米の地に、戦時下の稲門人たちが残した足跡を、ここで振り返ってみたい。

先駆けとなった「杜の西北」の編集に 10 年たずさわりました。しかし創刊号は惨憺たるもので、A4 版のペラ 1 枚。ワープロで打って写真を貼り付け、それをそのまま商工会館の複写機にかけて配付したのです。あの年、1995 年は阪神大震災に次いでオウム真理教事件。まさに震撼、混沌たる世相のなかの創刊でしたから、「何だ！こんな会報をつくって！」とたたかれずにすんだような気もします。

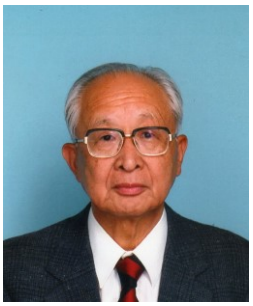
タイトルの「杜の西北」は、すんなり考え出すことができました。「都の西北、早稲田の杜」のさら

に西北に位置する東久留米稲門会。その会報ですから、一般的には「〇〇稲門会報」というのが多いなかで、ま、ちょっと粋に、しゃれた紙名になったと思います。一方、「編集後記」の「ポケットパーク」は難産でした。ここも、粋にしゃれたタイトルをかぶせたいと考え、2日間、うんうん唸って、やっと捻り出したのがこれ。当時、周囲の自治体がごくごく小さな空き地を公園にするのがブームで、これに便乗してのネーミングでした。

「杜の西北」全体の編集では、“人間くささ”と“親しみやすさ”の紙面づくりを目指したつもりです。そのため第2号以降、トップ記事に対談形式を導入、早稲田の奥島総長、次いで白井総長と安宅会長、高橋勤会長の対談掲載を実現しています。第9号では、戦時下、市内滝山に存在した「早稲田大学学徒錬成道場」について丹念な記事を書きました。これは貴重な資料として市の教育委員会の資料コーナーに収まっているはずです。

逝くメディア、生まれる媒体。ここでも世代交代は避けられませんね。

「杜の西北」と「東稲ニュース」　　帆角 信美　（36年　法）



東稲ニュースの編集実務に1回もタッチしていなかったため、何を書いていいやら迷った末に、東稲ニュースの陰に隠れた形になっている機関誌「杜の西北」について、簡潔に書いてみようと思い立ちました。機関誌の発行については役員会で議論を重ねた末に、会の活動状況を中心に特集記事も掲載する方向で年1回発行、実行部隊として編集チーム編成、編集チームの編集長は新聞記者として活動している國米家己三さん、編集員は若手役員で構成との結論を得ました。

機関誌の名称については、國米さんの提案で現在の「杜の西北」に決まりました。この名称の由来については「杜の西北」第2号1面に左上に解説されているように、様々な角度から練りに練った名称でもありました。題字の書は書道部会の部会長の武藤豊さんに依頼しました。

「杜の西北」は、國米さんの豊富な経験と深い洞察力に導かれて、年を経るにつれて充実した内容になりました。特集記事は読み応えのあるものが多く、特に第9号に掲載された「早稲田大学学徒練成部・東久留米道場」を扱った記事は素晴らしいもので、東久留米市の郷土史としても大きな価値があるものです。ところが、機関誌発行はコストが高く、会の運営が資金面で苦しくなってきました。

平成13(2001)年に「東稲通信」から発展した「東稲ニュース」の発行が決まり、それ以降「杜の西北」(年1回)と「東稲ニュース」(原則年6回)が並行して発行されましたが、平成22(2010)年に至り、財政難を主な理由で「杜の西北」は休刊となり、現在に至っています。「杜の西北」は当会の存在を象徴するに値する名称で、休刊のまま歴史の中の埋もれてしまうのは実に惜しいことです。「杜の西北」も再び表舞台に出られたら喜ぶことでしょう。「東稲ニュース」100号発行にあたり編集に携わってきた方々に心から謝意を表します。

「東稲ニュース100号に寄せて」　比護 喜一郎　（37年　商）

光陰矢の如しというが、東稲ニュースが悠々100号になると知って、改めて時の流れの速さに驚愕する。東久留米稲門会誕生に伴い、安宅初代会長自らが編集、発信してきた『はがき通信』を引き継いで、名称も新たに「東稲ニュース」がうぶの声をあげたのが平成１３年９月。決して安産とは言い難い新生第１号だったが、「東稲ニュース」を冠するにしてはなんとも貧相で、壁新聞の域を出ない出来栄えであった。

安宅初代会長、高橋勤二代会長に、機関誌「杜の西北」立ち上げ刊行していた國米さん(元産経新聞記者・現フリーライター)を交えての編集検討会を幾度も開き、新会報誌名を「東稲ニュース」とすること、用紙をA4版にして内容の拡範・充実すること、

原則奇数月 10 日に隔月発行すること、また配送費の節減を追求すべく会員ポストマン制を布くことなどを順次決めた。書式を読み易い縦書にする案は、悲しいかな私のＰＣ(Word)操作の技量が伴わないことから諦めてもらい、平易な横書きで行くことになった

第 2 号からは会員の声を載せる「噴水広場」のコラムを追設し、より身近で親しめるものにした。16 年 11 月発行の第 20 号からは題字を旧来の活字から会員直筆の筆字に変えた（最初は当時の高橋勤会長の自前筆字)。いずれも“全会員が参加し、全会員で創る会誌”を志向したものである。

全会員に本誌登壇を望むあまり、自宅まで訪れて投稿を無理強いしたことは数多い。「一刻も早く貴兄から解放され度いとの思いから、急ぎ書きまくりました。何よりもこの駄文お取り下げになりますよう切望します」（原文のまま）の添え書きを頂戴しながら、思い悩んだ末最終的に掲載させてもらった一件は忘れ難い。この投書の主も間もなく亡くなられてしまったが、今でも忸怩たる思いがある。
原稿集めの難しさ編集、表現の難しさを覚えつつ、まがりなりにも平成 13 年 9 月発刊の第 1 号から同 17 年 11 月の 25 号まで本誌に携わせてもらったが、節目の 25 号をもって新しい編集長にバトンタッチした。マンネリに安住することなく、変わりゆく世代、世相に対応するフレッシュな若い人達に「東稲ニュース」を託すのがベターと考えたからだ。

何時までも、新鮮で時宜を得た報道で身近にして楽しみのある「東稲ニュース」でありたいと希う。「東稲ニュース」の永続発展を心より祈り期待している。

「東稲ニュース 100 号を迎えるに当たって」　　井坂 宏　（38 年　理工）

いよいよ東稲ニュースが 100 号を迎えますね。お目出とうございます。これも今まで東稲ニュース発行に携わってきた多くの方の努力の結果だとお祝い申し上げます。

東稲ニュースは初代安宅会長が続けてこられた「東稲通信」を発展的に衣更えしたもので、平成 13 年 9 月 1 日に創刊号が発行されています。初代の編集責任者は当時の比護喜一郎副会長が務められ、比護さんのもとで第 25 号まで発行されました。その後、平成 18 年 1 月 10 日発行の第 26 号から平成 21 年 5 月 10 日発行の第 46 号まで私が編集責任者を務めました。

当時の編集委員は卒年順に菱山房子、神田尚計、松崎博、鮎貝盛和、森田隆、井坂宏、平山正徑、河村洋子の各氏でした。その後、塚越崇さんが加わりました。

東稲ニュース発行に当たってのメーンイヴェントは印刷でした。この時はポストマンが配る諸々のものを印刷したので関係者大勢が集まり、その後の反省会、編集会議と称しての飲み会が大変楽しかったことを覚えています。この伝統は今でも続いているようですね。

編集に当たっては、会員からの投稿を増やすことによって東稲ニュースを身近なものに感じてもらおうと会員からのエッセイ、絵画、写真、陶芸、詩、短歌、俳句などの原稿を募集したのですが、反響はあまりなかったでした。この時皆さんが積極的に投稿してくれていたら、東稲ニュースも随分と違ったものになったと思っています。

私が編集責任者をしていた時には早稲田学報の各稲門会の活動状況の紹介欄に東久留米稲門会の新年会、総会、各部会の活動などを投稿していたのですが、その後は途絶えてしまっています。これは投稿すればチェックなしに掲載してくれるので、誰か東久留米稲門会の活動状況を投稿したら良いと思っています。

あらゆる角度から自由に「編集後記」　　大島 勝典　（38 年　文）

東稲ニュースの歴史は稲門会とともに歩む。100 号を迎えても色褪せることなくエネルギーの結集が鼓動のように伝わってくる。

私は 46 号から 69 号まで「編集責任者」として担当させていただいていた、といっても編集ではなく

「編集後記」だけ。なりゆきはこうだ。平山元会長から編集責任者を要請された当時、私は多忙を極めていたことと、PC の不調もあってお断りしたのだが「編集後記」だけでもということでお引き受けしたという訳だ。そのぶん平山元会長にはご苦労をおかけしたと思うし、ちょっと心苦しさが残ったものだ。その代わりというわけではないが、編集後記はあらゆる角度から自由に書かせてもらった。

お誕生会、ウォーキング、旅行同好会など東稲ニュースの取材をかね積極的に参加したが、忘れられないのは 2011 年の総会前の文化講演会で私の長年の友人である、講談師　神田香織さんが起用されたことだ。平山会長の肝いりもあって実現した。稲門会としては異色の企画だった。講演のなかで「チェルノブイリの祈り」の一部を披露してくれた・・・余談だがその作家、ベラルーシのアレクシェビッチさんが 2015 年、なんとノーベル文学賞を受賞したのだ。「チェルノブイリの祈り」の講談化は 10 年以上まえに彼女に了承してもらったものだ。神田香織さんは時の人となり、「私がノーベル賞受賞したみたい」と言わせた程マスコミを賑わせたのは記憶に新しい。

さて、東稲ニュースは会員同士を結ぶ重要なツール、会員一人ひとりが次の世代を育てる作業も必要だろう。青春の心をいつまでも失わない東稲ニュースであってほしい。

「東稲ニュース創刊 100 号によせて」　　平山 正徑　（40 年　政経）

東稲ニュースの題字は、活字で創刊号 2001 年（平成 13）9 月から 19 号 2005 年 9 月まで続き同 11 月 20 号からは、小生の筆字が 2011 年 9 月の 60 号まで採用された。同 11 月号 61 号からこの度の 100 号記念まで、やや趣を変えたやはり小生の筆字が使用され、延べ 13 年間 81 回も表紙を飾ったことになる。101 号からは題字が生まれ変わることになると聞いている。多少書を齧った者としてはありがたいことと感謝している。

2009 年稲門会会長を引き受け、東稲ニュースの発行責任者になったものの、編集責任者井坂さんが（26 号から 46 号まで）退かれたため、後任の方を募ったが見つけられず、取りあえず編集責任者を大島さんに依頼し、編集後記を担当していただき、小生が編集を担当しスタート、直ぐに他の方に切り替える積りであったが、手を上げる人が現れず、ズルズルと 2013 年 3 月会長退任までの 4 年間（47 号から 69 号まで）編集を担当し続けた。振り返ると経験したことの無い作業であったが、続けるに従って私のＰＣの技も向上し、段取りが分かって来るとライフワークのようになり、原稿を作り上げることが出来た。言うまでもなく校正、部会報告、投稿依頼、写真提供など役員、部会長、会員の皆さまの多大なご協力をいただき成し得たものと思っている。

それにしても東稲ニュースの印刷作業を終えると、必ず近くの居酒屋に駆け込みワイワイガヤガヤが何とも楽しかったことかと思い出される。

遅ればせながら東稲ニュース№100 おめでとうございます。№101 号以降もますます進化する東稲ニュースでありますよう願っております。

「東稲ニュース№100」おめでとう！　　安次峰 暁　（45 年　社学）

「東稲ニュース№100」刊行、誠におめでとうございます。東久留米稲門会が発足して以来、会員の心の支えとして、途切れる事なく発行されたのは、「杜の西北」編集長、「東稲ニュース」歴代編集長、歴代担当者の方々の血の滲むようなご努力があっての 100 号だと思います。そして、それを配ったポストマンの皆様方の、時には怒られたり、犬に吠えられたり、交通事故にあいそうになったりした汗の結晶の賜物でもあると思います。

私が永く、稲門会の会員を続けられたのは「杜の西北」に(私の学生時代)を掲載して頂いたことが契機であったと、今でも大変感謝致しております。そして、今では、稲門会の無い人生は考えられないところとなっております。

これからも「東稲ニュース」が充実した会報となりますように期待しております。

「編集後記の種明かし」　　別処 尚志　(46 年　商)

平成 26 年 3 月のこと「副会長に就くに当たり、東稲ニュースの編集責任者を勤めるように」と平山元会長から厳命が下りました。編集作業の当事者能力に欠ける自分が勤まるハズがないのに、と内心ブツブツ言ってはみたものの、先輩の意向に添わないのは如何なものか、と思い直して引き受けた次第です。編集作業の実務は小山田さん(現編集責任者)にお願いして、一手に引き受けてもらい、自分の唯一の仕事は編集後記の執筆です。代々の編集後記は格調高く、エスプリに富み、また含蓄のある文章となっていました。文才に欠ける自分はどうするか？　自問自答した結論は、興味を持っている、旧暦の季節感溢れる言葉を、自分の勉強も兼ねて皆様に紹介しようというものでした。

旧暦は一年を四等分した春夏秋冬の他に二十四等分した二十四節季（にじゅうしせっき)、さらに七十二等分した七十二候（しちじゅうにこう）があります。さて、二十四節季は、

春：立春・雨水・啓蟄・春分・清明・穀雨　　夏：立夏・小満・芒種・夏至・小暑・大暑

秋：立秋・処暑・白露・秋分・寒露・霜降　　冬：立冬・小雪・大雪・冬至・小寒・大寒

となります。このうち、春分・夏至・秋分・冬至の四つの時期を二至二分（にしにぶん）といい、立春・立夏・立秋・立冬は四季それぞれのはじまりで四立（しりゅう）といいます。これら以外に桃の節句・端午の節句などの五節句や節分・彼岸・八十八夜・入梅・土用などの雑節があります。因みに五節句は正月七日（人日：じんじつ)、三月三日（上巳：じょうし)、五月五日（端午：たんご)、七月七日（七夕：たなばた)、九月九日（重陽：ちょうよう）です。これらの紹介を編集後記の目玉にしようと思いました。しかし、ニュースの発行月は奇数月のため、偶数月の紹介が出来ない事を開始早々気がつき残念至極です。

ところで、先に挙げた二十四節季のうち皆様はいつが好きでしょうか。春夏秋冬いずれも趣があると思いますが如何ですか？　小生は「立夏」です。さらに細かくいえば七十二候の「初候：蛙始めて鳴く」です。野原や田んぼで蛙が鳴き始めるころのこと。新暦でいえば五月の連休明けの時期、風薫る五月、青葉若葉の季節です。

以上、いかにも知っているかの如く書いてきましたが、表題のとおり種を明かせば、「日本の七十二候を楽しむ―旧暦のある暮らし―」　文：白井明夫　絵：有賀一広　東邦出版株式会社　でした。

「東稲ニュース 200 号に向けて」　　高橋 哲男　(50 年　政経)

現在の形態の東稲ニュースの創刊は平成 13 年 9 月、以来平成 30 年 5 月で 100 号となりました。この間の編集担当者は、たいへんな努力をされて来たと思います。厚くお礼を申し上げます。

ホームページは、会員・校友を含め対外的な広報ですが、会員全員へ稲門会の行事や部活動の状況等の周知やリレーエッセイなど、会員の体験や意見を共有する情報の媒介として東稲ニュースは、会員のコミュニケーションを図ってくれています。平成 29 年度は、部会活動を会員に紹介するため、部会探訪を企画しました。

最近の編集担当者の苦労していることは、リレーエッセイ関係の記事がなかなか集まらないことです。以前は、「旨いものの店」シリーズで地元の飲食店を紹介したこともありました。リレーエッセイ

の他、会員にお知らせする情報については発信していく予定ですので、会員の皆様の投稿をお待ちしております。

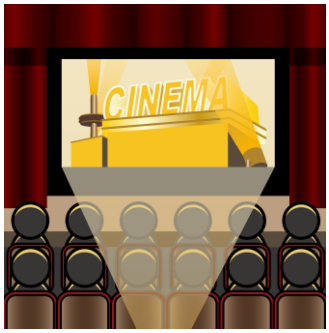
「継続は力なり」ですが、稲門会には力があると思います。次の 200 号へ向って新たに出発しますので宜しくご支援お願いいたします。

部会だより

＜野球早慶戦観戦部会＞　6 月 2 日（土）　第 2 戦観戦

春季東京 6 大学野球の掉尾を飾る伝統の早慶戦は 6 月 2 日(土)、3 日(日)の両日予定されています。当会では 2 日(土)の観戦を計画しています。昨秋は 5 位に終わり口惜しい結果でしたが、今年は奮起を期待します。各校実力伯仲であり厳しいリーグ戦が予想されます。清宮君は入学しませんでしたが、強豪高校の大阪桐蔭から徳山投手、岩本捕手が入部しており期待が高まります。最近、観戦の参加者が少なく些か寂しい観戦が続いていますが、現場へ行けばそれはそれは熱い雰囲気に包まれます。内野席の良い場所でも 1,500 円です。弁当・ビール持参で行けば比較的安く楽しめます。皆様のご参加お待ちしております。山口 謙二 記

＜映画鑑賞会＞　6 月 28 日（木）14:00 開演　於：成美教育文化会館



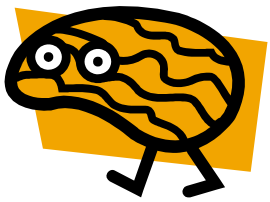
「ライムライト」1952　アメリカ　チャールズ・チャップリン監督

「ライムライト」は、「街の灯」とともに、チャップリンの代表作です。自殺を図った失業中のバレリーナを、老コメディアンが救けて励ます…。二人の尊厳＝やさしさがにじみ出る名作で、はかない恋の物語です。かつての、表情を崩さないだんまりの喜劇役者バスター・キートンも友情出演しています。

・アカデミーオリジナル劇音楽賞受賞
・キネマ旬報外国映画部門ベストテン第 2 位（1954 年）

米光 慶二郎 記

＜ウォーキング＆山歩き部会＞



ウォーキング（第 66 回）水元公園（江戸川区）にて菖蒲を鑑賞
日時：6 月 4 日(月)集合 9:30(時間変更あり得る）東久留米駅
＊雨天の場合翌日に開催

ウォーキング番外篇　甲州街道を歩く
第 7 回【鳥沢駅 →猿沢→大月→初狩駅】13.6 km
日時：5 月 21 日(月)　東久留米駅改札口集合
＊雨天の場合 1 週間延期

----------　＜以下の予定は変更が有り得る＞　----------
第 8 回【新田（笹子峠登り口）→初狩】9.1 km全部下り　又は　逆コース 9.1 km全部登り
日時：6 月 18 日(月)　東久留米駅改札口集合　雨天の場合 1 週間延期

第 9 回笹子峠越え【新田→甲斐大和】9.5 km
日時：7 月 9 日(月)　東久留米駅改札口集合　雨天の場合 1 週間延期

東稲広報室

＜新入会員＞

笹井 瞭三さん（S36 教育）、平山 努さん（S53 商）、村上 貴一さん（S58 法研）、日比野 利彦さん（S55 政経）、君和田 弘さん（S59 商）、　　入会、大歓迎いたします。積極的に部活動へご参加ください！

＜訃報＞

川俣 栄一 様　3 月 14 日ご逝去　弔意規定により当会より生花一基をお送りいたしました。
心よりご冥福をお祈りいたします。

＜総会/懇親会特別会計収支報告＞

4 月 22 日（日）の総会懇親会の収支は以下のとおりでしたのでご報告します。
〔収入〕 懇親会費（50 名）…151,000 円（寄付含む）
〔支出〕 飲食費…138,420 円　　会場費（什器・備品代含む）…16,850 円
〔収支〕 4,270 円の不足…本会計「イベント補助金」から補填しました。　　会計担当：清水 正弘 記

＜会員名簿作成にあたり、個人情報非開示希望の確認＞

7 月の「東稲ニュース№101」と同時に「会員名簿」を印刷/配付するにあたり、確認があります。
卒業年度、他、住所・電話等個人情報の非開示を希望する方は、その旨 5 月末日までに事務局までご連絡ください。

＜年会費の支払＞

継続会員の当会年会費は￥3,000 です。今年度分未納の方、5 月末日までに納入をお願いいたします。
「郵便貯金通帳」をお持ちの方でしたら、郵便局の ATM で送金（振替）すれば手数料が￥0 です。下記いずれかの口座への送金（振替）を行ってください。

★通常貯金通帳口座番号【店名】〇〇八【店番】008【預金種目】普通貯金【口座番号】2328684
★払込取扱票振替口座【口座記号】00100-6【口座番号】11607【加入者名】東久留米稲門会

＜Ｔａｂｌｅ　Ｆｏｒ　Ｃｈｉｌｄｒｅｎ＞

4 月 26 日（木）、滝山子供食堂の代表者の方にお会いして、1 万円をお渡ししました。毎月第 2、第 4 木曜日の夕方に子供食堂は開かれるそうです。5 月は調理などの手伝いをし、子供たちの様子を見てみたいと思っています。これからも皆様のご協力をお願いいたします。　　河村 洋子 記

〈会員リレーエッセイ〉　*～噴水広場～*

ＯＸＦＯＲＤ

藍原 昌義（40 年　法）

3 月 11 日奥克彦追悼試合を見に行って来た。W：O の追悼試合は二回目。2015 年第 1 回。その後 O 大は在欧州日本人のチーム相手に毎年試合を組んでくれていた模様。上井草族の A 氏、I 氏、S 氏、A 女史はインターネットが得意な S 氏が手配して 8 日出発。DUBLIN にて 9 日 Scotland vs Ireland の U19 観戦、10 日両国の Test　Match 観戦。11 日 Oxford 入りを早々に手配を済ましている。

大学 Rugby を中心に見ている K 氏と私、￥14,000 出してまで TestMatch 見る気無し。Oxford での一試合だけではもったいない。二人はご一行とは別に 8 日成田発夕刻 DUBLIN 着。Temple Bar のど真ん中 Blooms Hotel に投宿、安い U19 だけ観戦、10 日に Oxford 入りを JTB 高田馬場で手配。Irish whiskey、Guinness が楽しみ、魚介類も旨いだろう、Dublin 最初で最後の訪問になるだろうから。

9 日ご一行様我々の Hotel に来てもらい前夜眼をつけておいた小さい海鮮 PUB にて 6 名でゆっくり

昼の宴会。生牡蠣、焼きイセエビ、Dublin shrimp etc.　それぞれ Guinness　1 pint を乾して、ワイン赤二本、白二本。締めて 700 ユーロ。ご一行様はバスで、Ticket 持たない二人はタクシーで Donnybrook へ。車中「庭の千草も～。この歌知ってる？130 年前日本の小学校音楽教科書に。題名菊。日本皇室の花」、Driver「知っている。悲しい歌だ」

Ticket は K.O.30 分前になると Van で売りに来るとのこと。まだ二時間余ある。寒く小雨。GPost 裏に Club House. Pub と書いてある。中に入って Guinness を一杯。K 氏 Sofa で昼寝。隣から祭囃子が聞こえる。行くと選手が Warm up を始めている。「何で祭囃子？」。ご一行到着、無人の Main Stand ど真ん中に陣取る。Pub のオバチャンに「Ticket 売りこの部屋まで来るの？」「ここに居れば良い」、Member らしき人達がボチボチ。オバチャン「窓際に座って見なさい」テレビの中継車が邪魔。「後ろにテレビが在るよ」。結局私 Ticket 無しで Coffee 一杯と一握りの biscuit だけで試合終了まで Pub の窓から。K 氏「皆の所へ行きます」「中で見てれば良いのに。」無 Ticket で寒い Stand へ。これで体を冷やしたのがまずかった。K 氏夜/翌早朝、足痙攣。私薬買いに。結局 Dublin　二泊したが。

Temple Bar は夜遅くまで生バンド演奏で煩い。早朝は石畳を行く馬車ヒズメの音が頭の芯まで。Irish Whiskey は昔在日大使館で飲ませて貰った感激無し。Guinness は飲んだが、最後飛行場で飲んだ Carlsberg の軽さが旨く感じた。シチューのメニューが目立つので食ってみた。味は良いがしょっぱい。これとジャガイモ、パンで上等の食事だったのだろう Ireland　では。

10 日晩 Oxford 着。Best Western Plus Lodge Hotel　投宿。3 年前 3 泊した Hotel その時は気が付かなったが何と静かな Hotel。Temple Bar とは全然違う。K 氏と二人で夕食。離れた席に老夫婦が居るだけ。良い空間だ。ご一行様一緒でなくて良かった、上井草の居酒屋持って来たみたいになっちゃう。Carlsberg half pint、鶏肉の main に二人で白ワイン二本。

11 日バスで City center へ。人通りは多いが休日のせいか閉まっている店多い。Oxford goods 店等 High　street を window shopping。軽い昼食を済ましてもまだ 12:00 一寸。時間潰しに困る。ご一行様の泊まる Hotel　を確認してトコトコ Iffley Road の Rugby Ground へ。Main stand 下、更衣室隣のトイレへ。開いてない。・・・で一寸失礼・・・　駐車場を見ながら Stand へ、二人着席して間もなく。見た顔がボツボツ、アッあれは池上君だ、何年前卒業？R 社の London 駐在とは聞いていたが。Ground には島田部長、監督、コーチ陣が入ってくる。ご一行もやっと到着。「アリャ、オーストラリアから来たの？」フリン勝音君の兄。シドニー大で通訳の勉強している筈だが。「Spain に居るんです。近いから家族代表で行ってこいと言われて」「Spain 語もやるんか？こんがらかんねーか？」「既にごちゃごちゃです」。「皆さーん、フリン君の兄貴です」村上コーチが更衣室に連れ行ってくれた。

両チーム各々warm up の後整列。右早稲田、左 Oxford。レフリーの笛を合図に「奥克彦、並びに東日本大震災で亡くなられた方々に黙とう」、続いて「School song of Waseda University」CD に合わせて都の西北一番。

O 大ボール K.O.　First contact　ボール O 大に。No.8 佐藤主将が残っている　そのまま RETIRE。丸尾弟入る。10 分ペナルテイでスクラム選択、これを押してラック。右展開、桑山弟→佐々木で右中間 TRY。斎藤コンバート失敗。５：０。KICK 応酬の後 O 大 TRY、コンバート失敗。５：５．O 大スクラム弱。そこを W 突けない。34 分 O 大 CTB12TRY。コンバート成功 5:12.　このまま前半終了。後半 13 分 O 大 TRY、コンバート失敗、5:17.　桑山弟 OFF、伊藤大貴 ON。27 分 O 大 TRY。Post 正面コンバート外す、5:22。W 連れてきたメンバー出す

クラブハウスでのファンクションで談笑する中野将伍（3 年）

試合を前に、クラブハウス前での記念撮影

のに忙しい。31 分 W、22 メートル Lineout を turnover 左右展開、FB 岸岡ギャップを抜けて右中間 TRY。斎藤コンバート成功、12:22. 37 分 Lineout から quick throw 沖野左中間に TRY。岸岡 dropkick で convert19:22　42 分 W 自陣から攻める。22m中央のラックを O 大 turnover して左へ。左隅 TRY。コンバート成らず。19:27 で試合終了。

選手達が混ざり合って写真を取り合っているのを横目に Club house へ。Table を前に Beer 飲んでるオッちゃんが居る。私も Carlsberg を持って彼の隣へ。Australia から来た。（運動器具 maker の）RHINO の director だと。「私も 40 年前約 5 年間 Sydney の Eastern suburbs に住んでいた」「来年の W 杯行くよ。開会式と最初の Australia の試合を見て、一旦帰国、10 月末の準決勝、決勝を見に行く」Australia 準決勝・決勝行くこと決めているようだ。「ところで今日 W で目立った選手は？」「10 SO、前が見えている」加藤君を見つけ出してきて、「このオッちゃん偉く君を褒めてるゾ」「去年９月始めたばかりで」　後ろで O 大 CTB12、対面中野、フリン君らＣＴＢ陣、フリン兄の通訳で旨い交流出来て居たはず。行ってみると、フリン君「兄貴帰ちゃいました。」　O 大 12、中野君に対して「How　tall？」「186cm」「もっとデカいだろう」「彼（中野君）には double で行くことにしていた。（研究していたらしい）」「今度 W が来るのは 12 と９（斎藤君）が卒業してからにして欲しい」何とお世辞が上手いことか。流石世界のエリート。W 金無いからそうそう来られないのに。この後、RHINO　の CEO で Oxford ROB、Mr.R.Clark（SO、多分奥克彦と同年代。神戸鋼で Play 経験あり）の感極まる追悼 Speech。（Oxford での Play,日本 RUGBY 協会、早稲田 RUGBY 部への貢献 etc。紹介しながら→インターネットで「奥克彦」を見てください）

３年前はこのＰＵＢで主将挨拶があり、岡田一平君が英語と思える楽しい言葉で挨拶したのだが。今年の主将挨拶は Restaurant での横飯時らしい。我々はここで失礼。6 人小雨の中歩いて５分余。大学関係者のたまり場「Turf Tavern」へ。Real Pub の雰囲気だが、日曜日なのに満員。軽く一杯だけで、Hotel に引き上げた。OXFORD、落ち着いた大学街。好きです。　（写真提供：早稲田大学ラグビー蹴球部）

＜編集後記＞

東稲ニュース 100 号。時流に合わせ、ホームページにその役割を徐々に移行すべきとは思うが、全会員配付の紙媒体として役割は健在。創刊以来隔月刊行、17 年目の通過点とも言えるが区切りでもあり、特大号としてカラー印刷に。写真が格段にきれいに印刷できていると思う。大特集として創刊以来編集に携わってきた先輩諸氏に寄稿を依頼。休刊中の「杜の西北」についての言及多く、先輩方のノスタルジーと熱い思い入れが・・。東稲ニュース刊行継続と併せ、格調高い機関誌復刊要検討か。（朋）